

なにもそのおばさんが得意がることもないが、わたしもちょっと得意になった。「さもありなん」である。しかし、和子姉さんの家は東映ニューフェイスの誘いを丁重に断ったそうである。女優を堅気の職業とは考えなかったのかもしれない。あの家ならば、さもありなんである。ただ、女優になってプロ野球の選手とでも結婚されたらかなわ

い。あれは、あれもこれもおしゃべり好きのおばさんの脚本だったのかもしれない。おばさんは名脚本家であった。おばさんは「プロ野球選手は金は稼ぐし、家にはおらんし、人はよか、スタ

「戦後」の意味思う

戦後70年。作家の早乙女勝元さんは「10年後はまだ戦後でしょう。それも戦前、戦中でしょう。戦争体験に憲法9条が重なり、戦後の平和の礎となりました。民間人の被害を継承し

ていくことが、戦争への道に引きかかっていた。プロ野球選手はだましやすいというのである。そのなかの相手はプロである。和子姉さんのそれからは知らない。結婚したことは知っているが、知っていても知らない。



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

師の主人公は、厳しい訓練の日々を送っていた。ある日、墜落されたアメリカ軍B29の搭乗員が裏山に降下する。主人公は隊長から搭乗員を刺殺するよう命じられた。しかし生来の気の弱さから、実際にはけがをさせただけに終わる。終戦後、主人公は除隊して無事に帰郷する。しかしある日、特殊警察がやってきて捕虜を殺害したBC級戦犯として彼を逮捕し、主人公は理不尽な裁判で死刑を宣告される。彼は処刑の日を待ちながら「もう人間には二度と生まれてきたくない。生まれ変わるなら、深い海の底の貝になりたい」と遺書を書く。(松浦市出身)